

(特別支援学校版「学力向上実行プラン」様式)

令和6年度 徳島県立ひのみね支援学校「学力向上実行プラン」

徳島県立ひのみね支援学校長 森本 裕美

1 学力向上検討委員会構成

学 力 向 上 検 討 委 員		
	職名・校務等担当名	氏名
管理職	校長 教頭	森本 裕美 中村 敏恵 宮野 三奈
学力向上推進員	主幹教諭 教諭(学部長)	伊丹 三郎 (小)福原 薫(中)宮本 洋子 (高)谷口 夏紀
委員	指導教諭 教諭(人権進路課長) 教諭(教務主任)	山田 千代 二宮 智子 (小)片寄 恭代(中)高木奈緒子 (高)豊田 尚子

2 学力・学習状況における現状分析、目標等

【3つの視点】

- (1)基礎的・基本的な知識・技能の習得
- (2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成
- (3)主体的に学習に取り組む態度の育成

(中 学 部) 幼 児 児 童 生 徒 の 状 況			
よさ	これまでの学びや経験等により習得した動作、人と関わる力等をいかして、意欲的に活動できる。保護者や関係機関等の支援を受けて、健康に留意し活動に取り組んでいる。	課題 心身共に成長著しい時期であるが、筋緊張のコントロールの難しさ等により、身体の変形拘縮が進行し、生活・学習への困難さにつながっている面や、支援を受ける経験が多く、受け身になりがちな面がある。人や物との関わりを広げ、主体的に生活する力をつけたい。	
具体的目標(目指す子どもの姿)		成果指標	達成状況
身体や心の安定を図り、自分の力を発揮して周囲の人や物と豊かに関わり、興味・関心の幅を広げ、主体的に学習や生活に取り組む。		個別の指導計画において、2・3学期の「自立活動」の目標で「十分達した」「達した」という評価を80%以上とする。	評価
具体的方策(教員の取組)		取組指標	取組状況
①自立活動の目標設定の手続きに沿って、個々の生徒の中心的課題を捉え、2・3学期の個別の指導計画の目標設定を行い、学部教員で共通理解を図る。 ②PDCAサイクルに基づき、個々の実態に応じた自立活動の指導を実践する。 * 中間期の見直し		① 中学部全生徒について、ケース会で自立活動実践シートを用いて中心的課題や目標を検討し、学部教員で共通理解を図る。 ② 中学部全生徒について、自立活動の授業のミニ検討会や情報共有を学部会でやる。	
達成状況を踏まえた改善事項			